

## ビタミンC給与で若狭牛の肉質が向上

若狭牛肥育農家の所得向上には、大きな枝肉にすることと十分なサシ（脂肪交雑）を入れることがポイントです。

脂肪交雑は、品種、系統、個体の遺伝的能力が関係しますが、その他に栄養生理特に飼料中のビタミン類が大きく関与しています。京都大学では「ビタミンCが脂肪前駆細胞から脂肪細胞への分化を促進する」ことを試験管培養試験で実証しています。当场ではこの技術の実用化に向けて若狭牛にビタミンCを肥育中期から出荷まで、体重1kg当たり60mgの給与した結果、脂肪交雑が上がる成績を得ました。しかし、このビタミンC（添加剤）は高価なので、最も効果的な給与期間を明確にする必要があります。

そこで今回は、ビタミンCの給与時期を中期から後期まで給与する区（中・後期区）と、中期のみ給与する区（中期区）を設け比較しました。ビタミンC給与量は前回と同量(60mg/体重1kg)と

し、より収益を上げるために出荷を4ヶ月間短縮し26ヶ月齢としました。（表1）

出荷成績は、表2のとおりで、両区とも枝肉重量、胸最長筋面積、脂肪交雑、肉色等が優れていました。いずれも区間に差は認められず、中期のみの給与でも十分効果があると思われました。また、26ヶ月齢で出荷しても牛肉の肉色、締め、の低下はありませんでした。経済性（試算）は、ビタミンC添加剤費が中・後期区で平均49,100円/頭、中期区は平均17,800円/頭でした。

今回の試験では中期のみ給与によりその差額31,300円を節減できることとなります。

なお、ビタミンCの効果は、飼養環境（飼養密度、喚気、暑熱、寒冷）ストレスにより大きく影響を受けますので、現場での活用には注意が必要です。

（畜試 飼養管理G 明間基生）

表1 試験方法

区 分	頭 数	ビタミンC給与期間・量		出荷月齢
中・後期区	5	15～19ヶ月	30g/日	26ヶ月齢
		20～26ヶ月	40g/日	
中 期 区	4	15～19ヶ月	30g/日	26ヶ月齢

表2 枝肉成績および経済性

区 分	発 育 性		枝肉成績		経 済 性						
	出 荷 時 体 重	1 日 増 体 重	枝 肉 重 量	ロ ー ス 面 積	B M S	肉 色	締 ま り	枝 肉 単 価	販 売 額 ①	添 加 剤 費 ②	差 額 ①－②
中・後期区	697	0.84	436	51	7.4	4.0	4.8	2,106	918,600	49,100	869,500
中 期 区	727	0.87	456	48	8.0	3.8	5.0	1,983	904,800	17,800	887,000